
今日から君の彼氏

子猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日から君の彼氏

【Nコード】

N2644H

【作者名】

子猫

【あらすじ】

高校一年になって早くも1週間。高校生活も順調に進むかというところで、大変な事件に巻き込まれる。今まで何もなく平凡だった人生はこのとき一変した！

高校生活のスタート

眠い体をもぞもぞと動かし、窓のほうを向いてうつすらと目をあけると外から日の光がはいってくるのがわかった。もう外は大明りになったようで、車が家の前を通り過ぎる音が聞こえる。時計は夜中に寝ぼけて落してしまったようで見えないが、大体8時前くらいだろうという予想がつく。

「・・・起きないと」

そう言っただけでも起きようという意識を自分に働きかけようとしたその時、

「お兄ちゃん！遅刻しちゃうよー！！」

バンッ！とドアを壊すかの勢いで俺の部屋に飛び込んできたのは今年で小4になった妹の里奈だ。両親は転勤で二人とも今は外国にいるため、中学の頃からこれが毎朝のことようになって目覚まし時計を使う必要もない。おかげで助かってはいるものの、妹が遠足するときや運動会でうきうきして俺のことなんて忘れているときは起こしに来てくれないものだから起きたら10時・・・なんてこともあった。普段は二人なのだが月に2度ほど叔母が心配して様子を見に来てくれる。だが家事は専ら妹がやってくれる（というかなぜか俺にはやらせてくれない）ため、特に困ったことはない。妹は楽しんで家事をやっているようなので大丈夫そうだし、最近は夕飯を作るのにも凝ってきて、女の子らしい感じになっている。

まあ正直そんなことはどうでもいい話で、俺自身の話をしよう。俺の名前は栢原健人だ。今日で高校生になって1週間が過ぎる。中学から一緒に上がってきたやつらとも一緒になって、他校から来た人とも少しずつ話すようになり、普通すぎる高校生活がスタートしてきた。

でも、今思えば平凡な高校生活もこの日の半分くらいまでだった。

「行ってきました。」と既に妹は学校へ行っていて誰もいない家に向かってつぶやき家を出る。自転車にまたがって少し急ぎ気味に走らせる。家から学校までは20分くらいだからそんなに急ぐ必要もないのだが、どうしても俺は自転車に乗るとスピードを出したくなってしまう。自転車を置いて鞆を背負った時に、後ろから中学の時から友達の木下が声をかけてきた。

「よー、栢原。まださみーなー」

のんびりとした声で手をこすりながら俺と並んで歩き始める。

「そうだな。まだ4月に入ったばかりだしなー」

そんなどうでもいいいつもの会話が始まると思いきや急に木下がにやけ始め、

「そういやさー、お前D組の高橋遥って知ってるか？」と聞いてきた。

「・・・なんだ突然。気持ち悪いぞ。まだ入って1週間しか経っていないのに他のクラスのやつなんて知ってるわけないだろ」

「なんだよノリ悪いなー今時の男子なんて学年の女子のことくらい1週間もありゃ覚えちゃうぜ」

いや、それはないから。

「お前なあ・・・」

呆れて俺は何も言えなかった。それでも構わずに木下は話を続ける。「んで、そいつがさーすっげーかわいい子なんだけど彼氏とかいるのかなーっていうのお前に聞こうと思ったんだけどさ。なんか知らないか」

「いや、だから名前すら聞いたこと無いから・・・」

「そうだよなー中学の頃からまともに女子と会話できなかったもんなーお前」

グサッ！まあ確かにそうだが・・・こいつの言うとおりとまではいかないがもう少しくらい女子に興味を持ったほうがよさそうだ。

そんなことを朝言われて少し脳裏をかすめていたが、退屈な授業が始まるとまたいつものように空を眺めたりぼーっとしながら授業を過ごした。変わらない毎日、変化がなくて面白くもないが悪くはない日々。ガラッとそれが変わるような出来事に俺は出会ったところになかったし、別にそういうことを望んだこともなかったと思う。

教室に戻ってノートを取って戻ろうとしたその時、急に大きな声で「もう！ いい加減にしてって言ってるでしょ！」と怒声を響かせる声があった。思わずノートを落としそうになって、そのまま廊下に出ようとする一人の女子がものすごい勢いでこっちに走ってきた。

バクバク心臓が鼓動するのがわかる。ぶ、ぶつかるー！っと思いきや、その子は急ブレーキをして後ろを振り返った。見ると後ろから男子生徒が走って追いかけてくるのが見える。

「なんでだよ、別に他に付き合ってる奴いないんだろ？ だったら・・」

そういつて近づこうとする。

あー、そういう状況か・・・こんな修羅場(?)に遭遇したこと無いなあ・・・でもこういうときはやっぱりこの子の味方をしたほうがいいのかな。

そんなことを思っただけで迷いながら見守っていると、

「あーもう！しつこい！！じゃあ・・・この人！この人が今日から私の彼氏！ね？」

え？って何？俺？

わけがわからず呆然としてしていると可愛らしい女の子が俺を見つめてくる。気の強そうな目でじっと見たあと、

「じゃあ、そういうことだから！」

と言いつつ残してその場を立ち去った。男子生徒もその場に固定されたかのように動けなくなり、俺もしばらくそこで固まっていた。

次の日、学校に來ると

「おーい！君、君！昨日の人だね。昨日は助けてくれてありがとうね」

「え？あ・・・って君は昨日の！」

見ると目の前には昨日の謎の少女。正直、昨日のことは夢だったんじゃないかって思ってたのに。というか夢なら良かったのに・・・

「あなたが私の彼氏だからね！それじゃあよろしく！あ、そういえば名前言ってなかったよね。私の名前は高橋遙。よろしくね。それで・・・君は？」

「え、栢原健人・・・」

「そっかあー栢原君か！じゃあまた放課後にねー」

そういつて笑顔を見せてくるりと踵を返し、立ち去って行った。

高橋遙って・・・木下の奴こいつのこと言ってたのかよ・・・

俺の高校生活のこれが始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2644h/>

今日から君の彼氏

2010年12月18日03時16分発行